

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.03.No211

3月号

目次

震災特集「北海道建築士会の取組」……1
高校生の「建築甲子園」審査結果……3
青年・女性の窓……4
[青年委員会]
支部だより……5
[函館・松山]
平成27年定時総会案内……5
平成26年度高校生建築デザイン コンクール入選作品発表……6
Information……8

URL <http://www.h-ab.com/>

震災特集～東日本大震災から4年。北海道建築士会での取り組みを特集

応急危険度判定活動の機動的、積極的な取り組みを！

常務理事 松崎健児 (札幌支部) 被災地応急支援特別委員会委員長 牛田健一 (札幌支部)

■まずは柔らかい話から～ 中学校で一日講師、地震防災と職業の話

札幌支部 牛田 健一

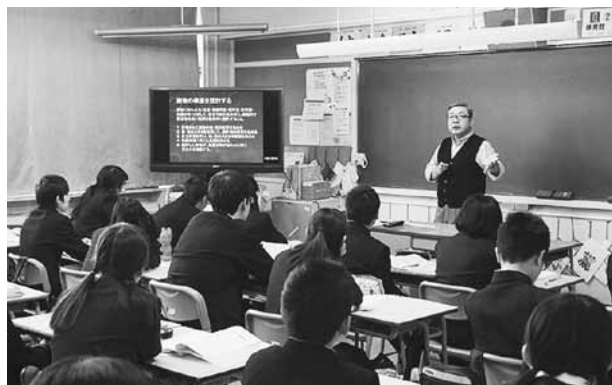
平成9年に琴似地区に住むようになってから、琴似中学校の「平成おやじの会」に参加するようになり、校区を離れた今でもOB会員として仲間に加えていただいています。

多くの活動を行っている中で、参観日に行われる「一日講師」で地震と建物の話を十年以上続けています。

最初は中学生に自分の職業について話すつもりでしたが、建築の話をするだけでは専門的な話が多くなり解りにくいと思い、最近では現地で見えて来た3.11の被害写真を見てもらってから、構造屋として日頃気にしている地震の話から始めています。

世界的に見ると地震がほとんど無い国もありますが、日本は地震多発国で多くの地震が発生しています。

「札幌では地震は少ないが、これから皆さんが進学や就職で関東方面に行くこともあるでしょう。そこでは大きな地震に遭遇する可能性が高いので注意をしてください。その時には、自分の身は自分で守るように」と話しています。「地震に対して耐震・免振・制震等の設計方法があり、建築の構造屋として、建物の設計や施工をするということは、地震に



対する安全も考慮しながら環境も考え、皆さんが生活しやすい空間を作っていく楽しい職業です。これから進路を考えるうえで参考としてください。」と締めくくります。

終わってから全員の感想文を書いてもらいます。「地震について改めて認識しました」、「地震に備えて家族で話をします」、「家具の配置等を見直します」、「建築の仕事も将来の選択肢として考えてみます」など、話を理解してもらえたことを強く感じ、嬉しくなります。

琴似中は、三学年で22クラスあり、全てのクラスで様々なおやじが話をします。他にも札幌ドーム施工の現場にいたおやじや、都市計画の仕事をしているおやじが建築の話をしています。若者の建設業離れが進んでいますが、建物を作る楽しさと、やり甲斐を小中学生に対して皆でもっとお話ししませんか。

■道士会の応急危険度判定活動の取り組み

本会では、いつどこで起きるか分からない巨大地震に備え、地域における避難施設等の安全確認などの実践活動に積極的に参加できるよう平成25年度に「被災地応急支援特別委員会」を設置し、連絡網の整備や訓練に実施、震災時における応急危険度判定士の派遣などの支援活動に取り組んできました。

昨年の9月5日開催の第4回理事会で、「(一社)北海道建築士会震災建築物応急危険度判定支援要綱」が承認されましたので、その概要をお知らせします。

地震と建物

- 地球の内部
- 地震の起こるしくみ
- どうして日本は地震が多いのか
- 地震に備えて！！
- 地震に対抗する耐震システム
- 建物の構造を設計する

来月号(4月号)の会誌は、「総会特集」掲載のため4月8日の送付となります。

○応急危険度判定支援要綱の趣旨

震災時における被災建築物の応急危険度判定等の支援要請に対し、本会が迅速かつ的確な対応が図れるよう支援要綱を制定するとともに災害時応急危険度判定活動連携協定（基本条文案）により市町村と具体的な取り組みができるようにするものです。

○(一社)北海道建築士会震災建築物応急危険度判定支援要綱の概要

第1 目的

震災時における被災建築物の応急危険度判定等の支援要請に対し、北海道建築士会が迅速かつ的確な対応が図れるよう必要な事項を定めることを目的とする。

第2 支援体制の整備

- (1) 震災建築物応急危険度判定士登録者名簿の整備
- (2) 震災建築物応急危険度判定士連絡網（以下「ネットワーク」という。）の整備
- (3) 支援要請の受け入れ、本会会員の北海道震災建築物応急危険度判定士の参集要請、判定業務の実施

第3 登録者名簿の整備

- (1) 本会は、震災時において参集要請があった場合、被災市町村に派遣できるよう判定士の登録者名簿を予め作成しておく。
- (2) 登録者名簿は、会員の判定資格者を対象に登録することとし、2年に一度登録者に登録意思等について再確認を行い名簿の維持管理を行う。

第4 ネットワークの整備

- (1) 本会のネットワークは、北海道による派遣要請体制が振興局単位となっていることから振興局単位で整備することを基本とする。
- (2) ネットワークは、支部長経由を基本とするが、状況に応じて対応できるよう被災地応急支援特別委員会のルートも設定する。
- (3) ネットワークは、登録者名簿と同様に2年に一度の見直しを行い維持管理に努める。

第5 支援要請の受け入れ及び判定士の参集要請、判定業務の実施

- (1) 参集行動基準
 - ① 北海道からの判定士の派遣要請は、原則として会長が受ける。
 - ② 前項の規定に係わらず、協定に基づく派遣要請が当該支部に

あった場合、当該支部長は、状況に応じて当該支部のネットワークの判定士に意向を確認し、派遣要請に応えることができる。

- ③ 会長は、被災地応急支援特別委員会委員長と協議の上、判定士の派遣等の業務を行う。
- ④ 会長は、震災の場所及び規模、判定士の派遣要請や本会の判定士派遣可能者数等を勘案し、支部長に速やかに派遣要請を行う。
- ⑤ 要請を受けた支部長は、ネットワークの判定士に意向を確認し、派遣可能な判定士名と派遣人数等を会長に報告するとともに派遣判定士への行動開始を要請する。
- (2) 応急危険度判定業務の終了と報告
 - ① 判定士は、市町村の災害対策本部（応急危険度判定実施本部）の指示した方法により解散し、帰任する。
 - ② 判定士は、帰任後、直ちに所属支部長に帰任報告を行う。
 - ③ 支部長は、会長に自支部より派遣した判定士の帰任状況について報告を行う。
- (3) 補償
 判定活動などによる補償については、「応急危険度民間判定等補償制度」によるものとする。

第6 行政との連携

本会は、震災時の判定活動をより効果的に実施していくため、北海道及び各市町村と連携し、次の取り組みを行う。

- (1) 災害時応急危険度判定活動連携協定の締結推進
 本会は、震災時における判定活動を迅速かつ効果的にできるように支部と市町村との「災害時応急危険度判定活動連携協定」締結を推進する。
- (2) 実施本部協力員、判定コーディネーターの人材育成
- (3) 判定士の登録促進、判定士の判定訓練の実施

附則 平成26年10月1日施行

（北海道建築士会応急危険度判定士災害時行動指針は廃止する。）

■これからの活動

いつ地震が来るか分からないし、自分の住む地域では大きな地震は無いのでは？という気持ちの皆さんが多いと思います。しかし北海道においては、十勝沖・根室沖でM7.1以上の地震発生の確率は80%以上、その他の断層においても2～6%の確率で地震が起こると言われています。道内どこの地域で地震被害が発生してもすぐ対応できる準備はしておきましょう。被災を受けた道内の仲間を手助けする気持ちは持ち続けたいと思います。昨年、被災地応急支援特別委員会がお手伝いして、日高支部・恵庭支部・十勝支部と3か所で机上訓練を行ってきました。

今年は1月21日に旭川支部において参加者28名で行いました。

応急危険度判定訓練としては、実際に被害を受けた建物での訓練が望ましいですが、それは無理ですし、とりあえず写真を使った机上訓練なら手軽に行えます。



写真を見ながら判定を行っていると、判断に困ることが多々ありますし、被災後の人命に係わる二次災害を防止するという応急危険度判定の趣旨から考えると、どうしても安全側に「要注意」や「危険」側の判断をする傾向があります。

被害状況



机上訓練の例（柱被害と窓ガラスのひび割れの判断）

5年に一度の更新時講習で何となく解ったつもりでいても、実際の被災を目の前になると判断に困ることが沢山出てくると思います。是非数多くの訓練をして自信を持った判定が出来る準備をしておきませんか。

まずは、応急危険度判定士連絡網（ネットワーク）への参加・登録を、そして、訓練に参加していただきたいと思います。

委員会として、「うちの支部で応急危険度判定の机上訓練やりたいので来て」の連絡をお待ちしています。

2014高校生の「建築甲子園」～地域のくらし～ BEST 8 審査委員長特別賞

北海道名寄産業高等学校賞状伝達式

日本建築士会連合会が主催した2014年「建築甲子園」で第3位に相当しますBEST 8審査委員長特別賞に選ばれた北海道名寄産業高等学校建築システム科への賞状伝達式が2月16日に同校で行われました。石川統括理事と遠藤名寄支部長が出席し、全校生徒の前で選手（生徒）へ賞状を手渡し、これからの活躍にエールを送りました。

高校生建築甲子園賞状伝達式に参加して

名寄支部支部長 遠藤 光博

この度、日本建築士会連合会主催による平成26年度建築甲子園にて、審査委員特別賞の賞状伝達式を執り行なうべく、石川統括理事と私2名にて出席をしてまいりました。

設計内容は、名寄中心街の疲弊を憂いている若者の意見を言葉ではなく、設計という形に変えて市民に訴えたものであり、関係者にとってもある意味衝撃的な作品でありました。

建築士会や建設業関係者ばかりではなく、地域の活性化には住民の皆さんも日々悩みを抱えております。今回の受賞作品が即まちづくりに活かせるかは別問題としても、我々の身近にこのような若者が存在していることに大変感激したと同時に、彼らの考えや意見をしっかりと受け止める建築士会とならねばならないとあらためて感じたところです。野球甲子園と同じように、生徒をここまで鍛え上げた教師陣の指導力にも敬服をいたしました次第であります。

最後に、近い将来に彼らと共に建築士会を盛り上げ、共に歩む日を待ち望みつつ、生徒らの今後の弥栄を祈念して伝達式の感想とさせていただきます。



応募作品タイトル 「一致団結」

選手/ 4名

かつての賑わいを名寄市の街に取り戻したい。その一念から、夏祭り、盆踊り、雪祭り、アスパラ祭りなどの大きなイベント時に人の賑わいがあるならば、大小のイベントを増やし、賑わいに相応しい街、賑わいが連鎖するような街に構成を変えていけばいいと発想し、“祭り長屋”の提案がなされた。各所に望楼が築かれ、街を眺め祭り囃子が近くに遠くに聴こえてくるような街の計画案が生まれた。

この計画には広大な大地と開けた
 天空があり、人や地域を結びつける眺めと音がある。忘れられた古い方法が、ここでどっこいその常識を打ち破っている。諸手を上げて審査委員長特別賞を送る。
 ～審査総評抜粋

天空があり、人や地域を結びつける眺めと音がある。忘れられた古い方法が、ここでどっこいその常識を打ち破っている。諸手を上げて審査委員長特別賞を送る。

青年委員会

『2014年 札幌支部青年委員会の活動』

青年委員

小林 祐司（札幌支部）

札幌支部青年委員会の活動についてご報告いたします。2014年も引き続き、札幌支部青年委員会の活動方針である、「スキルアップ活動」、「仲間づくり」、「地域貢献活動」を軸に各活動を行って参りました。

■ 2月26日に「ウエルカムセッション」と題して若手の新規建築士を対象に交流会を開きました。計22名で行われ、それぞれビジネスの話やプライベートの話で盛り上がりました。また青年委員会の活動をPRする素晴らしいプレゼンテーションができました。私達の活動をどうPRしていくか、そこに笑いや感動、エンターテインメント性を付加して魅せる、ということも大事なことなんだという気付きを得る貴重な場となりました。次回も何かしらの仕掛けを考えて積極的に若い人が建築士会に興味を持ってもらえる場にしていきたいと思えます。



■ 4月19日に第1回道央ブロック協議会（札幌支部主管）を開催いたしました。今回は江別市経済部からの申し出により、江別市にある旧れんが工場を利活用するワークショップを開きました。各支部合わせて計34名により利活用プランを考え、成果品を江別市経済部に提出するため6つのグループに分かれ、より現実的な収支プランまで含めた事業計画書を作成し提

出しました。行政と建築士会が一緒に考え行動する良い地域実践活動になったと思います。

■ 6月21日・22日に新さっぽろアークシティサンピアザ光の広場にて、建築士の日イベントに参加いたしました。例年通り、子供たちのお仕事体験として札幌支部では「パズルでおへやを考えよう」を実施しました。子供たちだけではなく、お父さんお母さんも一緒に夢中になってパズルを作っている姿がとても印象的でした。



今年はより発展させ子供たちが作ったパズルを展示できる巨大なステージを用意しました。札幌支部青年委員会で現在、このパズルをより発展させ子供たちが楽しく建築を学べる教材にできないか、チームを作って検討しています。将来の職業選択のきっかけづくりとして建築士の職業を体験し、職能を知ってもらうことは10年・20年先の建築業界に向けて種をまく意義のある活動と考えています。

■ 11月8日、第3回道央ブロック協議会（滝川分会主管）に札幌支部から4名が参加いたしました。研修会では「第9回ちびっ子建築士」が開かれました。カラーセロハンを切り貼りして思い思いの絵をスタンドグラスのように仕上げ、スチレンボードで作ったお城の窓に展示するといった工夫がな

されてきました。



■ 11月26日、第2回設備セミナーとして、北海道庁本庁舎耐震改修工事の現場見学会を開催いたしました。複雑かつ大規模な設備群を全て更新しながら、同時に免震工事をするという、大変難しい工事の概要を、竹中工務店の方々のご協力をいただいております。



■ 12月17日、第1回色彩セミナーを開催いたしました。講師にアメリカ代表の田中氏をお招きして、シャガールとエルメスのお話を軸に建築における色彩をどう考えていくかをお話していただきました。



以上、いくつかの活動を抜粋しての報告となりましたが、この1年間を振り返ってみると札幌支部の青年委員会にも色々な変化を感じることが多くなりました。新しい青年も委員会に顔を出してくれるようになりました。今後もますます青年から盛り上げていきたいと思えます。

函館支部

歴史的建築遺産を保存する意味とは

事業委員

石王 紀仁



箱館が開港された1854年を前後し、函館史に名を刻む6人が誕生する。山本琢磨は1857年来函、沢辺琢磨と改名し神明社の宮司となる。坂本竜馬の従兄弟である。ロシア正教会司祭ニコライ・カサートキンは伝道のため1861年来函。新島襄は米国への密航の途上1864年函館に上陸。1877年に英人ジョサイア・コンドル、1888年に独人リヒャルト・ゼール、1903年には同独人ゲオログ・デラランデが、共に建築技師として来日する。

沢辺はロシア領事を通じニコラ

イと出会い洗礼を受け、後に司祭を叙聖する。更にニコライの日本語教師であった新島の出航を手助けする。ロシア領事館附属礼拝堂司祭ニコライは後に大主教となり東京に復活大聖堂を建設する。設計者はコンドルである。沢辺は聖堂建設に立ち会っている。帰国した新島は同志社大学を創設しクラーク記念館を建設する。設計者はゼールである。ゼール日本最後の仕事がロシア領事館の新築計画であった。設計を終えたゼールは監理をデラランデに託し1903年ドイツに帰国。1906年完成した領事館は翌年の大火で全焼したが1908年に再建され、函館市船見町に帝政ロシアの威光を残し現存する。1902年コンドルも同領事館の設計

案を提出したが廃案となっている。時代はドイツ、ロシア、イギリス、フランス、アメリカ、日本が、アジアにおいて植民地や租借地を巡り覇権を争っていた時期に重なる。

18年間閉鎖されている旧ロシア領事館の再生を主題に昨年、国際設計競技が開催された。世界より34の提案が寄せられ、フランスと日本の建築家が1等を分け合い、ロシアの建築家が3等を、アメリカの学生が佳作を受賞した。

旧ロシア領事館の程近くに、かつて保存運動で注目を集めた弥生小学校がある。校庭の一角に建つ案内板には「旧アメリカ領事館跡」と標されている。

桧山支部

桧山景観プラットフォーム

支部長

若浜 崇



平成22年度に「桧山景観プラットフォーム」(構成メンバー: 建築士会桧山支部・江差町建設水道課・桧山振興局建設指導課)で作成した「江差ふっとばす」のルート内に平成26年度、目的地の道標となる標柱を4基を設置しました。また「江差ふっとばす」のルート内にある「一休み公園」の掲示板に案内看板を設置し、「江差ふっとばす」を充実させました。

案内板等作成にあたり、北海道科学大学建築学科の谷口教授の

コーディネートにより2回のワークショップを実施。1回目のワークショップは、江差小学校において、建築士会から江差の歴史ある街なみ、風景等についての説明及び、谷口教授から「江差ふっとばす」を作成した時の概要等について説明後、学校側が事前に班編成していた6班の内4班は、標柱各1基ずつを、2班は共同して案内看板1枚を担当することといたしました。小学生たちは江差らしさを意識して設置箇所に合った文字や絵のデザインをし、班ごとに発表いたしました。

2回目のワークショップは、「江差ふっとばす」のルート内にある

「一休み公園」において、1回目のワークショップでデザインした下絵を基に建築士会で事前に準備した標柱や案内看板、正方形のプレートに水性ペンキで描画等を行いました。また作成した正方形のプレートを釘やビス等で、標柱や案内板に打ち付けをし、楽しい交流ができました。



江差小学校の生徒たちとワークショップ

平成27年 一般社団法人北海道建築士会 定時総会について

定時総会は、代議員により下記のとおり開催となりますが、一般会員のみなさまも懇親会への参加ができますのでご案内いたします。懇親会への参加ご希望の方は、(一社)北海道建築士会本部事務局 (011-251-6076) へお問合せください。

平成27年 定時総会 懇親会

開催日：平成27年3月27日(金) 会場：ホテルポールスター札幌 時間：17:30~19:30
会費：5,000円(当日会場で申し受けます。) 申込締切：3月20日まで

平成26年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表

課題「公園内のバーベキューハウス」

今年で19回目となる平成26年度高校生デザインコンクールの課題は、網走市の道立オホーツク公園内にバーベキューハウスとその付属施設を設計するというものでした。設計条件としては木造平屋建て、延床面積100㎡、幅広い年齢層の利用や地域住民の交流、憩いの場としての機能のほか、自然環境への配慮、ユニバーサルデザイン、積雪対策、維持管理の低減などが求められ、道内の工業高校6校から67作品の応募がありました。多少の技術的な問題点には目をつぶりながら、高校生らしい素直な視点や表現力を重視して審査を行いました。結果は最優秀が美唄尚栄高校、優秀が札幌工業高校、苫小牧工業高校（2点）、その他に佳作4点、特別賞2点が選ばれました。

最優秀作品は流水砕氷船ガリンコ号をモチーフとして、外観デザインに取り入れた船のかたちがオホーツクの海を感じさせるもので、建築としての使いやすさや環境への配慮等が良く考えられた案でした。優秀作の札幌工業高校の作品はかわいらしい花びらを立体的にデザインした案で、いくつもの棟が分散することによる機能面での不便さはありませんでしたがシンプルで夢のある表現に好感が持てました。残り2点の優秀作はともに苫小牧工業高校の作品で、意匠デザイン、機能、表現ともに非常に高いレベルでまとめられた完成度の高い作品でしたが、建築雑誌などで見掛けたような既知感があり、高校生らしさがあまり感じられなかったことが少し残念でした。

このコンクールを機に、高校生たちが将来の建築技術者として育ってくれることを多に期待したいと思います。

高校生デザインコンクール選定委員 まちづくり委員会副委員長 鈴木 利治

最優秀
作品賞

公園内のバーベキューハウス

北海道美唄尚栄高等学校
遠山 大騎（3年）
近江 信哉（3年）
岸 龍彦（3年）

□設計趣旨

オホーツク海に面した網走市にはたくさんの流水が流れ着きます。そこで、私たちは流水砕氷船「ガリンコ号」をモチーフにすることにしました。バーベキューハウスの屋根は船体に似せ、カラーも赤色を取り入れました。さらに、「ガリンコ号」の最大の特徴であるスクリューを表現するため、それに似せた飾りをつけ、老若男女が楽しめるデザインにしました。また屋根を二重にすることで、バーベキューによって発生する煙を逃がしやすくするための工夫をしています。外構は自然との調和を考えつつも、平板を敷きつめ流水に見立てています。『地域の人が家族や友人などと心地よく利用してもらえたら』と願っています。

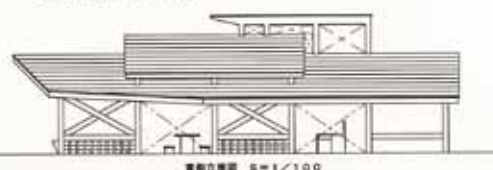
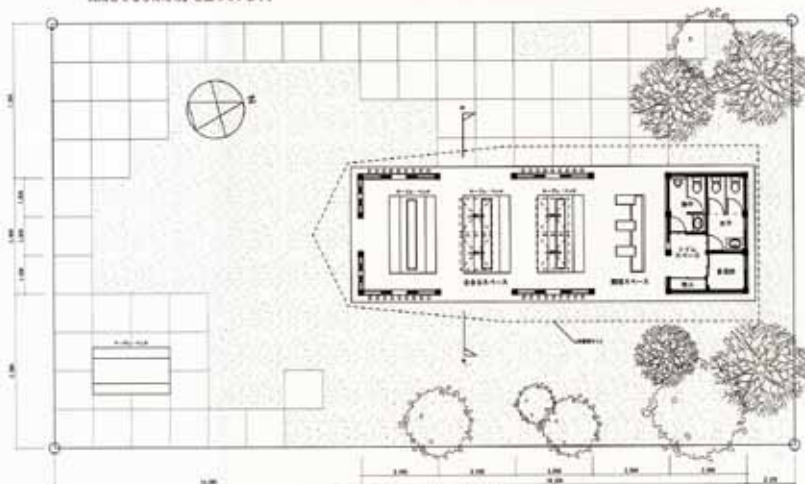
□審査講評

流水船をモチーフにした大きな屋根の下にゆったりと諸室が配置されたプランに気持ち良さを感じ、場の開放感もあって自然との一体感も楽しめそうな提案となっているところなどが特に高く評価された。

平成26年度 高校生建築デザインコンクール 公園内のバーベキューハウス

種別	自由スペース	08.62㎡	トイレスペース	19.87㎡
総床スペース	19.83㎡	延べ面積	99.26㎡	

オホーツク海に面した網走市にはたくさんの流水が流れ着きます。そこで、私たちは流水砕氷船「ガリンコ号」をモチーフにすることにしました。バーベキューハウスの屋根は船体に似せ、カラーも赤色を取り入れました。さらに、「ガリンコ号」の最大の特徴であるスクリューを表現するため、それに似せた飾りをつけ、老若男女が楽しめるデザインにしました。また屋根を二重にすることで、バーベキューによって発生する煙を逃がしやすくするための工夫をしています。外構は自然との調和を考えつつも、平板を敷きつめ流水に見立てています。『地域の人が家族や友人などと心地よく利用してもらえたら』と願っています。



優秀
作品賞

北海道札幌工業高等学校
平塚 友紀 (3年)
本間 結 (3年)
高坂 昌樹 (3年)

FLOWER DOME ~Barbecue house~

□設計趣旨

網走市という町を代表する花である『エゾムラサキツツジ』と、バーベキューには欠かすことのできない『七輪』を融合させることで、今までにない新しいバーベキューハウスを提案します。

建物の形状は全体的にツツジをイメージして作られていて、建物の上部に「網」を設置することにより七輪を視覚的にイメージ出来るようにしました。また、上部に設置してある網は、バーベキューで発生した煙を建物の外に排出するという機能も兼ね備えています。

さらに、建物の内部は多人数が同じ空間を使用することができるよう、バーベキューを行う台を可動式にすることで、それぞれの用途に合わせた場に生まれ変わります。

□審査講評

空間の個と共有スペースのバランスが良く、程良く外に開かれた形態は雨、日射しのシェルターとしての機能もあり、遠くから見てもわかる花のイメージが可愛らしく、花の中心部を七輪に見立てるユニークな発想などが高く評価された。



優秀
作品賞

北海道苫小牧工業高等学校
星野 滉太 (3年)
佐藤 隼 (3年)
佐々木天太 (3年)

Stack Roof

□設計趣旨

開放的な中にも、独立性を考え、大きな屋根の下3棟に分けました。室内に壁を設けず、柱が立ち並ぶオープンな廊下は、ゆるやかに室内をひとつにし、また、隔てています。

重なりあう屋根のすきまから差し込む光は、柱を介し木漏れ日のようなやわらかい光となります。

春・夏・秋、冬はクリスマスのついで、雪遊びの休憩場所として1年を通して、利用してほしいと思います。

□審査講評

大きな屋根の下に2つの屋根が重なりあひ、広がりを感じられ美しいデザインとなっていて、プランの個と共用の関係が良く、バーベキューコーナーの機能もしっかりしていることなどが高く評価された。



優秀
作品賞

北海道苫小牧工業高等学校
関口 博史 (3年)
小田桐京佑 (3年)

wonder wall

□設計趣旨

オホーツク公園内の通路に沿って立つ、ヒバの垣根モチーフにしました。傾斜した列柱の回廊から差し込む光は、木漏れ日のように、やわらかく室内にとどきます。並木道、防風林のように・・・、一枚の不思議な壁になります。

ひとが集まるにぎやかな空間なので、シンプルな平面としました。

シンボルツリーでクリスマス！1年を通して利用してほしいと思います。

□審査講評

木造の持ち味を出し、縦格子が作り出す光の演出をねらっているのがユニークであり、公園のシンボルとなり得るようなデザインとなっていて、共用空間と程良く分離された屋根に覆われた空間のゆとりがあることなどが高く評価された。



平成27年 (一社)北海道建築士会会員作品の募集

会員の創意と技術に満ちた作品を紹介することで、会員の技術力向上とこれを起点としたコミュニケーションによる士会活性化を目的とした作品展です。多くの会員の応募をお待ちしています。

応募対象

- ①対象建物 平成23年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。
- ②対象者 本会の正会員(応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限ります)
- ③応募作品 1人若しくは1グループで1点とします。

所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

応募締切および提出先

平成27年5月22日(金) 必着

[提出先]

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地大五ビル6F
(一社)北海道建築士会 事務局
TEL: 011-251-6076 FAX: 011-222-0924

応募資料

- ①申込書 所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。
- ②提出資料 図面(平面図・断面図・配置図等)及び完成写真(内・外装)等の画像データ3点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。(応募作品は返却しません)

作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し「北海道建築士No.217」に掲載します。

※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。

HP <http://www.h-ab.com/>

平成27年度 建築士定期講習

建築士事務所に所属する方で平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)に建築士定期講習を修了した方は、今年度が更新の受講年度です。

第一期(5月)

20日札幌市・21日函館市・28日旭川市

第二期(8月)

27日札幌市

第三期(10月・11月)

札幌市・帯広市・室蘭市・旭川市・函館市

第四期(平成28年2月・3月)

札幌市・釧路市・苫小牧市・北見市

※すべて予定

詳細については、4月号同封の「建築士定期講習案内」をご覧ください。受付は、4月1日(予定)からとなります。

編集後記

東日本大震災から4年、そして阪神大震災から20年が経過しました。今月号では震災特集として応急危険度判定活動における北海道建築士会の取り組みを掲載しております。私を含め実際の判定活動を行ったことのある建築士は少ないですが、判定活動を行ったことのある会員の方もいらっしゃいます。地震はいつ起きるかわからないですが、皆さんも応急危険度判定士となり、いざというときに役に立てる建築士になりませんか。

情報委員 熊谷 智

CPD認定プログラム(2月認定)

◆技術講習会

《日程及び会場》3月3日(火) 13:30～16:30
ホテル黒部(北見市)

《単位数》3単位

《問合せ先》(一社)北海道建築士会 遠軽支部 TEL 01586-2-2181

◆平成26年度建築確認における構造審査円滑化のための講習会

《日程及び会場》3月20日(金) 13:30～16:00
かでの27(札幌市)

《単位数》2単位

《問合せ先》北方建築総合研究所 構造計算的適合性判定センター
TEL 011-204-5362

道士会の動き

道本部の主な会議報告

◆第1回女性委員会

《開催日》2月7日(土)

《議案》1)平成27年女性委員会の事業計画 2)その他

◆第1回ヘリテージマネージャー特別委員会

《開催日》2月28日(土)

《議案》1)H27カリキュラムについて
2)登録について

道本部の主な行事予定(3月)

- 7日(土) 第1回被災地応急支援特別委員会
- 11日(水) 定期監査
- 12日(木) 第1回理事会
- 20日(金) 専攻建築士審査評議会
- 27日(金) 平成27年定時総会
- 28日(土) 平成27年全道青年委員会連絡会議

関係機関等会議出席状況(3月)

- 5日(木) 札幌市とJ5意見交換会
- 13日(金) 日本建築士会連合会理事会(東京)
- 17日(火) CPD専攻建築士制度委員会(東京)
- 20日(金) 北海道事務所協会総会懇親会
- 24日(火) 専攻建築士認定評議会(東京) すべて高野会長出席

実務に役立つ建築法規解説2014 販売のご案内

平成27年1月～2月に開催の第48回建築基準法講習会で使用しましたテキストを販売いたします。

販売予定数に達した時点で終了となりますので、お早めにお求めください。



実務に役立つ 建築法規解説2014

編集＝全道建築行政連絡会議

第48回 建築基準法講習会テキスト

◎A5判 ◎定価:3,500円

※送付希望の方へは書籍に請求書を同封の上、送料着払で発送しておりますので、FAXにてお申込ください。

申込用紙は北海道建築士会のホームページからダウンロードできます。

【図書問合せ先】(一社)北海道建築士会 011-251-6076

情報委員会委員長/神田 光英

副委員長/斎藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利

委員/高松 徹・熊谷 智・柳山美保子

鈴木 雅人

北海道建築士 No.211号

印刷 平成27年2月/発行 平成27年3月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル

電話 (011)251-6076番

URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎

〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目

電話 (011)811-7151番